

令和3年度

地域医療学講座年報

—第13号—



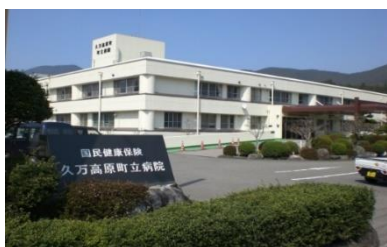
愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

地域医療実習施設

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター



久万高原町立病院



西予市立野村病院



愛媛県立南宇和病院

地域サブセンター



宇和島市立津島病院

目 次

- あいさつ・・・・・・・・・・・・・・・・地域医療学講座 教授 川本 龍一 1
- 地域医療学講座の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 久万高原町サテライトセンターでの活動・・・・・・・・・・・・・・・・3
- 愛南町サテライトセンターでの活動・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 地域医療学講座寄稿 2022・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
- 学外講師による講義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
- 第 21 回愛媛プライマリ・ケア研究会・・・・・・・・・・・・・・・・9
- 地域医療教育活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 第 11 回中四国地域医療フォーラム・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 地域医療学医科学研究 基礎配属学生の取り組み・・・・・・・・13
- 愛媛県主催医学生サマーセミナー・・・・・・・・・・・・・・・・15
- 愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来・・・・・・・・・・・・17
- 愛媛大学医学部附属病院総合診療科専門研修・・・・・・・・18
- 初期研修（地域医療）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- 2021 年度地域医療学講義内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
- 2021 年度地域医療ワークショップ（地域枠対象）・・・・・・・・23
- 第 5 学年臨床実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
- 地域医療学講座大学院生卒業論文・・・・・・・・・・・・・・・・25
- 業績：原著・総説・症例報告・学会発表・研究会・講演会・その他・・・・26
- 講座関連の研究費・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
- その他：教育活動・受賞・委員会活動・・・・・・・・・・・・36
- マスコミ取材・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

あいさつ

地域医療学講座 教授 川本 龍一

日頃から当講座および総合診療科にご支援たまり、誠に有難うございます。今年度も昨年度同様に、新型コロナ禍で振り回された一年でした。当講座もコロナ感染予防に配慮した診療・教育活動を余儀なくされ、制限された活動も少なからずありましたが、概ね順調にこなすことができました。

地域医療実習では、久万高原町立病院、西予市立野村病院、愛媛県立南宇和病院、宇和島市立津島病院のスタッフの方々には日常業務の忙しい中、快く学生を受け入れいただき、この場を借りて厚くお礼申し上げます。感染状況をみながらの実習実施ではありましたが、本県では学生はチーム医療を多職種連携活動の実践を通して学んでおり、将来における地域医療への貢献が期待されます。現在、地域卒の卒業生も次第に道後平野以外の地域に派遣されるようになり、各地で活躍されています。

地域卒の学生に対しては毎週のワークショップやサマーセミナーを通して地域志向の涵養やフォローに努めています。ワークショップもすべてオンライン形式での実施を余儀なくされました。本年は参加率の高いと予想される1年生を対象に毎週にわたりオンライン形式でのワークショップを開催しました。1年生はさすがに出席率が高く、「鉄は熱いうちに打て」との諺に従いました。そろそろこのワークショップも義務化すべきと考えています。

大学附属病院では、6年前より総合診療科を担当し、教授2名と助教2名の4名体制により外来診療活動（5日/週）を実施してきました。対象は地域の医療機関から紹介を受けた初診患者です。コロナ禍にて紹介患者は減少傾向ですが、継続患者は少しずつ増えています。患者の多くが幾つかの病院を既に受診され自身の病状に納得されていない患者であり、各科との連携により経過を診ていくのが総合診療の役割でもあります。

現在当講座では、地域住民のコホート研究や学生の地域志向性尺度開発の研究を継続しており、今年度も愛媛大学協働教育研究支援事業経費や科研費、西予市地域貢献研究事業費からの予算を得ました。講座には2名の社会人大学院生が所属し、それぞれ地域の病院に勤務しながら臨床研究を行い、1名は本年度で無事卒業する予定です。当大学には学部1学年の時期から研究科配属として希望の講座に所属しながら研究活動を行う制度があり、今年度の当講座には1年生3名が所属しています。本来なら地域医療の現場で患者に触れるとともに地域医療ならではの調査を行う予定でしたが、学外での活動がコロナ禍にて許されず、一年間Webでの指導となりました。研究成果は日本プライマリ・ケア学会四国地方会にて発表し高く評価を受けました。

以上のような活動を通して愛媛の地域医療に微力ながら貢献してまいります。これからも教育・診療・研究と様々な事業で皆様からのご支援をお願いすると存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

地域医療学講座の取り組み

当講座は、地域医療支援センター、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして愛媛県や市町村、西予市地域サテライトセンター、久万高原町地域サテライトセンター、愛南町地域サテライトセンター、津島町地域サブセンター、地域医療機関等学外の関係機関と連携を図りながら「地域を舞台に学ぶ」をスローガンとして以下のような取り組みを行っています。

1 医学科学生教育

・学生教育

1年生：早期体験実習【必須】：地域枠担当

1年生：医科学研究：地域医療学講座基礎配属【必須】：3名

3年生：地域医療学講義【必須】28コマ：全員

社会と医療講義【必須】1コマ：全員

4年生：衛生学・公衆衛生学特別講義【必須】1コマ：全員

5年生：臨床実習（地域医療実習2週間）【必須】：全員

6年生：臨床実習（地域医療実習2～4週間）【選択】：久万・野村での希望なし

1～6年生：春季・夏季休暇期間中の地域医療合宿【希望】Web：名

・学生教育支援

地域医療ワークショップ毎週木曜日昼休み（年16回）：地域枠

愛媛県主催医学生サマーセミナー（年1回）：地域枠+自治医大学生+他大学医学生

医学生による診療船 済生丸実習（年2回）：希望者 中止

愛南町の医療にふれる会（年1回）：希望者 Web開催

多職種連携ワークショップ（年1回）：希望者 中止

2 医師のキャリア支援活動

・愛媛大学医学部附属病院総合診療専門研修プログラム：1名所属

・愛媛大学社会人大学院（地域医療学講座）：2名所属

・初期臨床研修 地域医療研修（西予市立野村病院内科）：9名

3 地域医療支援

・愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来：毎日午前中

・西予市立野村病院・久万高原町立病院・愛媛医療センター・今治医師会立市民病院の診療支援

・同門会員の診療所支援

・講演会の開催：愛媛プライマリ・ケア研究会、西予市多職種連携地域包括ケア研究会

・地域での講演活動

久万高原町サテライトセンターでの活動

地域医療学講座 准教授 徳本 良雄

2020年度から久万高原町立病院に設置されている久万高原町サテライトセンターを担当しています。

久万高原町は令和3年度4月1日時点で48.67%と愛媛県で最も高齢化率が高い自治体です（県平均は32.84%）。特に旧3村地域（面河、美川、柳谷）の高齢化率は高く、どのような形で久万高原町の医療体制を維持していくかが喫緊の問題となっています。当院は松山側に位置しており、人的にも時間的にも町内全体を訪問診療等でカバーすることがなかなか困難であったため、送迎サービスを中心に行っていました。高齢化が進む中で通院困難な患者も増加してきており、訪問診療・看護についても拡充が進められています。

新型コロナウイルス感染症流行下で、感染リスクを抑えながら学生実習をいかに続けていくかが課題です。久万高原町は幸いなことに大規模な新型コロナウイルス感染の発生は起きておりませんが、散発的に発生しているような状況です。呼吸器症状を伴うような新患者は新型コロナウイルス感染のリスクもあるため学生対応を控えており、若干新患対応は減っているのが実情です。地域での実習は患者・家族、病院スタッフとの距離が近く、特に高齢者の多い久万高原町では実習に承諾いただけないのではないかと危惧していました。しかし、住民の皆様、病院スタッフのご厚意のもと流行前と同様の実習を継続できております。この場を借りて、学生の診察を快く受けていただいた患者様、ご家族、スタッフの皆様方に御礼申し上げます。

1. 週間予定

	午前	午後
月	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・院内案内、挨拶 ・外来実習 ・超音波検査実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・初診及び再診外来診察 ・典型症例検討会
火	<ul style="list-style-type: none"> ・外来実習 （父二峰診療所：恩地森一先生）1名 ・外来実習 （内科外来：菊池明日香先生）2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線部実習（放射線技師） ・採血実習（看護部） ・臨床検査室（臨床検査技師）
水	<ul style="list-style-type: none"> ・地域消防・救急実習 （久万高原町消防本部） ・介護・デイケア実習 （老健施設あけぼの） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャー業務（地域連携室） ・役場行政・地域包括支援業務 （地域包括支援センター） ・リハビリテーション実習 （リハビリテーション室）
木	<ul style="list-style-type: none"> ・血圧測定実習（病棟） ・外来実習 （内科外来：古川慎哉先生） 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療 1名 ・訪問看護 2名
金	<ul style="list-style-type: none"> ・外来実習 ・超音波検査実習 ・採血実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・検査室実習（検査室） ・スライド発表 ・実習まとめ

2. 外来実習

外来実習は月・金は徳本が担当し、火曜は菊池明日香先生、木曜は古川慎哉先生が引き続き応援に来て下さっています。また、火曜日は父二峰診療所で恩地森一先生に学生指導をお願いしています。

月曜・金曜の外来実習では初診、再診患者の問診、画像読影、結果説明などを学生が実際に行っています。下腿浮腫の触診、心音の聴取部位など、適切なフィジカルアセスメントを実施できない学生が多いような印象があります。結果説明に関しても初めてとの学生が多く、患者・家族が理解できるような平易な言葉を使用しているか、基準範囲と正常値の違いを理解しているかなどに注意しながら指導を行っています。

これらの体験が学生の記憶に残るように、feed back を行いながら適切な診察技術を修得できるように実習を行っており、エコー、救急対応、予防接種なども時間があれば体験できるようにしています。

3. 実習課題

①実習レポート

実習を通じて感じたことをレポートにまとめてもらっています。実際の医療の現場を体験することで、様々な地域での医療への思いが生じているようです。このような体験が、愛媛の医療を支えていくモチベーションとなることを願っています。

②プライマリケアレポート

訪問診療などで体験した症例をプライマリ・ケアの視点からまとめてもらっています。介護保険などの社会保障制度の実際を初めて体験し、さらに高齢化社会における老老介護や独居生活の現実に少なからず衝撃をうけている学生が多く見られます。患者・家族を一人の人間として見る貴重な機会だと感じています。

③主訴からの鑑別 (Power point)

1つの症候について鑑別を中心したスライドをグループごとに作成してもらっています。取り上げられることの多いテーマは「めまい」、「胸痛」、「腹痛」などで、内科外来マニュアルや、日本内科学会の冊子などを参考にしてもらっています。

「地域医療」において問診と検査をどのように進め、鑑別診断を行っていくかを疑似体験してもらうことが目的であり次のような設定で行っています。まず、受診状況により想定される疾患リストは変わるため、重篤な疾患比率の高い救急搬送ではなく、walk-in で内科外来を受診したとの設定にしています。次に検査は地域の医療機関で実施できる範囲（当院では血液検査、心電図、X線、エコー、CT、内視鏡などでMRIは不可）で使用可能としています。

学生にとっては、国家試験の禁忌肢や red flag などの緊急性の高い疾患に目が行きやすいところですが、なるべく common disease を中心に、緊急性の高い疾患を見逃さないためにどうするかを考えるようお願いしています。また、文字だけではなく参考文献やイメージ図（例：Epley 法の実施法）を積極的に入れてもらい、後日見直しても役に立つようなスライド作成を促しています。

発表時には、問診内容や検査の順番が無理のない流れかどうか、聞き漏らしを避けるために OPQRST など医療面接方法の活用など、単に鑑別をまとめるだけでなく実際に診察を行う場合に役立つようにフィードバックを行っています。

愛南町サテライトセンターでの活動

愛媛県立南宇和病院総合診療・地域包括医療センター 三瀬 順一

この実習の位置づけ

臨床実習のローテーションのうち1週間を通じ、人に生きる社会、人間関係、経済環境など、時間空間を超えた一人の歴史と未来を見据え、医療の現場はもちろん、患者になる前の「人」をみる（見る、看る、診る）実習

目的

コアカリ（医学教育モデル・コア・カリキュラム平成28年度改訂版,2016）

G-4-3)地域医療実習

表1 地域医療実習での経験が期待される項目

1. 病診連携、病病連携
2. 地域の救急医療
3. 病院前救護体制・メディカルコントロール
4. 緊急度判定体系
5. 在宅医療
6. 多職種連携のチーム医療
7. 地域における疾病予防・健康維持増進の活動

（地域医療実習協力機関における学習目標と方略より）

医学生に求めたいこと（抜粋）

今回の改訂の主眼である「多様なニーズに対応できる」ということを達成するためには、医学・医療の概念を幅広く捉えることが求められる。例えば、今日の医師に求められる役割の一つとして、予防医療がある。すなわち、医療全体を考えるに当たっては、病気の診断や治療だけでなく病気の背景を考え、また運動や栄養・食育の重要性についても認識することが必要である。また、幅広い視野を持つという観点では、患者一人一人がそれぞれに社会生活を営んでおり、在宅医療を含め医療現場で目にするのは患者の生活の一場面に過ぎないということを認識することも重要である。これらを意識しながら臨床実習をはじめとする学修に臨めば、より有意義な成果が得られることだろう。

地域医療学講座寄稿 2022

国保一本松病院副院長 嶋本 純也

「今回の医学生は凄く良い、今回の医学生は変わっていますね。」実習に来た学生のことは住民や看護師さんの声で評価がすぐに分かります。

コロナウイルスは私が医学生だった頃の呼吸器科学の「風邪診療」の授業で風邪の主たるウイルスであるから地域医療をする者は覚えておくようにと言われました。PCR 検査により COVID19 (「Corona Virus Infectious Disease, emerged in 2019)が可視化できるような時代になりました。その影響もあり医学部教育における実際に患者さんと直接触れ、話を聞く時間が短くなっています。国際水準の医学教育を確保するための体制構築、つまり米国での医師申請資格を確保するために日本医学教育評価機構が発足し臨床実習時間の見直しも行われてきました。しかし重要なことはカリキュラム上の数字ではなく実際に患者さんを診ることで臨床医、研究医、行政など幅広い分野での活躍する医療人としての自覚させることと考えております。

様々な医学生を指導していると人の命を見る前に社会人としての教養、常識、礼儀に欠けていると苦言を呈さないといけない時に遭遇します。このことは私見ではなく住民や他のヘルケアプロバイダーも同じように感じたという感想からも確信致しました。6年間医学のみに特化し勉学に励むと避けられないのかも知れません。医学生自身に「気づき」「気づかせる」ことが重要と考えます。実習時間は感染症の影響で少なく、医師になってからは働き方改革のため臨床医として患者と接する時間は減ることを伝えます。だからこそ地域医療実習を通して患者になり得る正常な人と接することで医療以外の社会と触れ、失敗もして叱られ良い医師として活躍して欲しいと願います。

愛媛県内各地域で施行錯誤しながら愛媛大学医学生に素晴らしい地域医療実習を提供できるように様々な先生がご尽力されております。愛媛の最南端より三瀬順一先生と共に、医療だけでない所も楽しかった、大学では学べないことが学べたと医学生から言われるように微力ながら教育に携わる所存です。

学外講師による講義

「高齢者医療と福祉」(2021年11月18日、Web講義)

綾川町国民保健陶病院院長 大原 昌樹先生

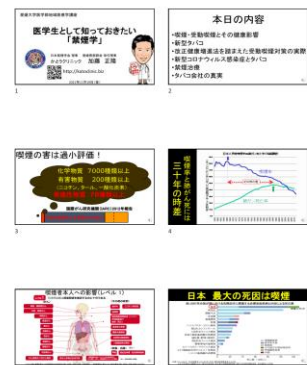
大原先生が地域の第一線で取り組んでおられる多職種連携のなかでの地域をケアする取り組みについて見取りも含めて幅広い領域を具体的な事例を交えながらわかりやすく解説していただきました。今回の講義では、地域で活躍する様々な職種、医師、看護師、ケアマネージャー、サービス業者、住民、業者についてその役割も説明していただきました。患者さんの背景や生活環境の把握の重要性、老健や特養施設の役割、在宅医療の醍醐味やメリット、患者さんとの交流を通して、地域で活動することの喜びや遣り甲斐などについてもお話いただきました。先生の温かなお人柄が現れる内容の講義でした。



「家庭医による禁煙活動」(2021年11月19日、Web録画)

かとうクリニック院長 加藤 正隆先生

たばこは、ニコチン依存症を引き起こす病気であり、もたらされる害と影響の大きさについて、発症機序、それに対する具体的な取り組みについて海外の現状を交えながらわかりやすく講義していただきました。お忙しい中、PPTの録画を用意していただきました。最初の画面ではいつもと同様に全身を禁煙グッズで包み講義する姿が映し出され、先生の情熱が伝わる講義でした。



「地域医療における病院運営と高齢者ケア」(2021年12月17日)

済生会松山病院院長 宮岡 弘明先生

済生会松山病院での様々な取り組みについてご紹介いただきました。済生丸による離島医療については、毎年地域医療実習の一環として乗船させていただいていましたが、今年はコロナ禍にて中止になりました。離島である宇和海の釣島や八幡浜市大島での健康教室活動、宇和島市嘉島での出張診療をご紹介いただきました。さらには地域医療を担う医師養成として、総合診療のマインドを持った専門医を養成する取り組み、救急病院のメリットを生かしたローテート方式についてもご紹介いただきました。



「地域医療における心のケア コロナ感染と漢方」(2021年12月24日)

愛媛県立中央病院 漢方内科主任部長 山岡 傳一朗先生

山岡先生は、学生時代から東洋医学を学び、現在は後継者育成に努める傍ら生薬や鍼の効果についても研究活動をされています。今回は理由があって、学生さんに質問しながら授業をはじめたようです。同僚が研修医の頃一緒に診断したという視神経脊髄炎の患者さんがいるそうで、今もその方に、柿蒂湯(柿の蒂、生姜、丁子)を使ってケアしているとのこと。そのお孫さんが愛媛大学の医学生だと知ったそうで、どうしたら彼女を見つけられるかを考えながら授業をしたそうです。患者さんの家は道後の白鷺堂というお団子屋さんだそうで、良くなって来た時、わざわざ私の診察室で坊ちゃん団子をひねって作ってくれたそうです。そのお孫さんだったら、おそらく「道後温泉は、誰が、または何(答えは、白鷺)が見つけたのでしょうか?」と聞けば手を上げると思っていたそうです、そして、見事に、手を挙げた女の子を見つけると、患者さんの娘さんにそっくりだったそうです。とても心温まる授業の一コマです。



「バングラデシュでの医療活動」(2022年1月20日)

医療法人鷺友会牧病院 宮川 眞一先生

先生は、子供の頃の岩村 昇先生との出会いやパキスタンでの中村医師との出会いが先生の現在の活動につながっています。徳島大学医学部に入学、学生時代にバングラデシュに赴き体験したお話。医学部卒業後は、福岡徳洲会病院で研修、その後 JOCS 日本キリスト教海外医療協会に参加しバングラデシュでの医療活動に従事された話やダッカ人質テロ事件やロヒンギャ難民問題などについて貧困や格差、人種差別などが背景にあることを教えていただきました。社会的企業(無担保で企業するソーシャルビジネス、マイクロクレジット)や社会的貢献(Table for Two)についても現地の前向きな取り組みを紹介されました。



「地域医療について」(2021年11月18日 12:00~12:35、Web 講義)

愛南町国保一本松病院副院長 嶋本 純也先生

地域枠1年生を対象として、自治医科大学を卒業され愛南町で活躍されている本学会会員でもある嶋本純也先生より「地域医療について」のお話をいただきました。予防から治療、リハビリテーションまで住民の身近な存在として活動することの重要性を強調された。患者さんも外来で診るときの視診、それは呼び入れて診察室に入るときのしぐさ、服装、履物、顔色など多くの情報があり、それらが診断の参考にあることも話されました。学生実習は年中受け入れており、いつでも歓迎とのことでした。



第 21 回愛媛プライマリ・ケア研究会を開催

2021年8月31日18:30~20:30 第21回愛媛プライマリ・ケア研究会を開催しました。今回もコロナ感染禍にてwebでの開催となりました。リモートではありますが、例年と同様に一般演題、教育講演、特別講演と盛りだくさんで実施しました。活発なご討議が聴講からのチャットを活用して行われ、参加者は、愛媛のみならず四国、あるいはそれ以外の県からもWebにて総勢70名が参加されていました。また本会は、愛媛大学大学院社会医学コースフォーラムにも指定されていたことから愛媛大学医学部の大学院生の参加も見られました。

一般演題は、座長として西予市立野村病院副院長の大塚伸之先生にお願いし、以下の2演題の発表がなされました。

1) 糖尿病性舞踏病の1例

愛媛大学医学部附属病院総合診療科：菊池 明日香 先生

2) 新型コロナウイルス感染症の軽症者を受け入れる宿泊療養施設において、安定した施設運営に貢献できた事例

愛媛県立中央病院総合診療部：青木 一成 先生

次に、教育講演は、座長として愛媛大学医学部地域医療学講座助教：二宮大輔先生にお願いし、以下の講演がなされました。

教育講演

「ヒト中心の医療-いきるを支える患者のみかた-」

演者：五十野 博基 先生


社会医療法人石川記念会 HITO 病院総合診療科

特別講演では、日本プライマリ・ケア連合学会四国支部支部長として常日頃お世話になっている高知大学医学部家庭医療学講座教授の阿波谷 敏英先生にお願いし「地域医療を育てる～次世代の人材育成」と題してご講演をいただきました。高知県の中山間地などにおける地域医療を担う人材育成に関して幅広い側面からのご講演でした。後継者の育成には、地域で育てるのが一番、それには地域の医療機関を大学のキャンパスとしてそこで地域医療を体験させることが重要ということで、そこでの教育の工夫についてとても参考になるお話でした。

当日の一般演題および特別講演は、プライマリ・ケアにふさわしい熱のこもった内容であったと思われまます。皆さんも是非、日ごろの疑問や興味深い症例について本研究会を通じてご発表頂ければと思います。次年度も本研究会は開催される予定です。是非またのご参加をお願いいたします。




第 21 回愛媛プライマリ・ケア研究会
-愛媛大学大学院社会医学コースフォーラム-

日時：2021年8月31日18:30(18:00~入室可能)~20:30
会場：Webexを使用したオンライン形式にて開催 参加料：無料
共催：愛媛プライマリ・ケア研究会 愛媛大学医学部地域医療学講座
URL: <https://bit.ly/3yaSE11> 

*参加登録不要

プログラム

- 一般演題
座長：西予市立野村病院副院長：大塚 伸之 先生
1) 糖尿病性舞踏病の1例
愛媛大学医学部附属病院総合診療科：菊池 明日香 先生
2) 新型コロナウイルス感染症の軽症者を受け入れる宿泊療養施設において、安定した施設運営に貢献できた事例
愛媛県立中央病院総合診療部：青木 一成 先生
- 教育講演
座長：愛媛大学地域医療学講座助教：二宮 大輔 先生
「ヒト中心の医療-いきるを支える患者のみかた-」
演者：五十野 博基 先生 
- 特別講演
座長：愛媛大学地域医療学講座教授：川本 龍一 先生
「地域医療を育てる～次世代の人材育成」
演者：阿波谷 敏英 先生
高知大学医学部家庭医療学講座教授

* 日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医更新のための単位 2 単位 認定医副師の認定単位 1 単位 (800 字以上のレポート提出が必要です。)
* 愛媛大学 大学院生は、このコースフォーラムに参加し、レポート提出することにより、最大 5 点、また、発表した学生は演習 (発表科目) として、5 点が得られます。
レポート提出: 9 月 7 日締切 okayama.yoko.my@shime-u.ac.jp (講座秘書 岡山)まで
(問い合わせ先) 〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53
愛媛大学医学部地域医療学講座西予地域サテライトセンター 担当: 川本龍一
TEL 0894-72-0180 FAX 0894-72-0938

地域医療教育活動

西予市多職種連携地域包括ケア研究会

日本は、諸外国に例をみないスピードで高齢化が進行しています。65歳以上の人口は、現在3,500万人を超えており、2042年の約3,900万人でピークを迎えますが、その後も、75歳以上の人口割合は増加し続けることが予想されています。このような状況の中、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれています。一方、西予市などの地方においては、既に超高齢社会は訪れており、都市部の10年先を歩んでいる状況です。

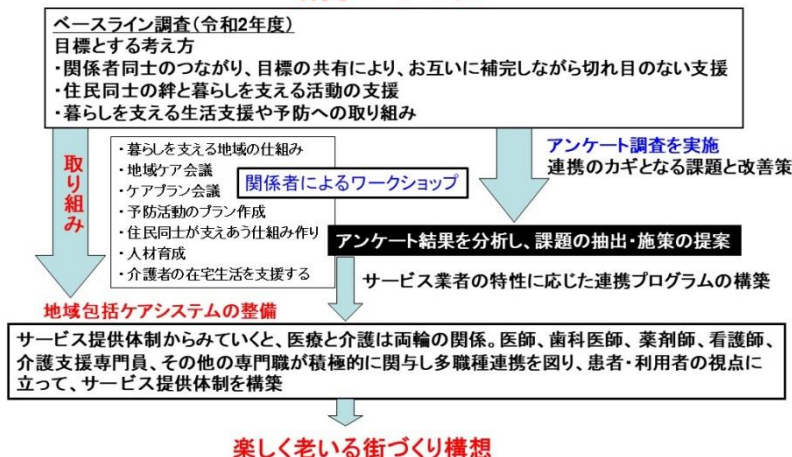
こうした状況下、厚生労働省においては、2025年（令和7年）を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進するように各市町村に求めています。下記のような事業を地域のサービス業者向けに実施しました。

2021年度実施の取り組み

- ・地域における褥瘡対策（2021/01/13、西予市）
- ・地域における糖尿病対策（2021/02/17、西予市）
- ・地域で取り組むコロナワクチン接種（2021/03/17、西予市）
- ・「地域で取り組む在宅リハビリテーション」（2021/04/28、西予市）
- ・地域で取り組む褥瘡予防（2021/05/19、西予市）
- ・病・診連携や病・病連携での活動は地域包括ケア（2021/06/30、西予市）
- ・地域医療における救急のABC1（2021/09/29、西予市）
- ・地域医療における救急のABC2（2021/10/29、西予市）
- ・地域におけるACP活動1（2021/10/29、西予市）
- ・地域におけるACP活動2（2021/12/15、西予市）

「西予市:楽しく老いる街づくり構想」の調査研究

研究ロードマップ



第 11 回 中四国地域医療フォーラム プレ集会

プレ集会 日 時：令和 3 年 2 月 6 日（土） 9：30～12：00

場 所：Web 開催（Cisco Webex）

議 題：地域医療関係講座の現状と課題

9：00	受付開始
9：30	開会挨拶 川本 龍一（愛媛大学医学部地域医療学講座 教授）
9：35	各大学からの報告（発表 8 分 質疑応答 2 分） テーマ「地域医療関係講座の現状と課題」 座長：川本 龍一（愛媛大学医学部地域医療学講座 教授） ・佐藤 勝（岡山大学医学部地域医療人材育成講座 教授） ・浜田 紀宏（鳥取大学医学部地域医療学講座 准教授） ・佐野 千晶（島根大学医学部地域医療支援学講座 教授） ・松本 正俊（広島大学医学部地域医療システム学 教授）
10：15	休憩 ・前田 敏彦（山口大学医学部附属病院医療人育成センター 助教） ・谷 憲治（徳島大学病院総合診療部 教授） ・阿波谷 敏英（高知大学医学部家庭医療学 教授） ・川本 龍一（愛媛大学医学部地域医療学講座 教授）
11：00	全体討論
11：50	次回開催地についてお知らせ・閉会挨拶 二宮 大輔（愛媛大学医学部地域医療学講座 助教）
12：00	閉会
	各自昼食
13：00	第 11 回 中四国地域医療フォーラムの開催

第11回 中四国地域医療フォーラム 本会

1. 日 時 : 令和3年2月6日(土) 13時～16時
2. 開催方法 : Web開催 (Cisco Webex)
3. 出席者 : 中四国各県の地域医療に関わる大学関係者・県行政担当者・
地域医療支援センター職員・公立病院指導医・
地域卒卒業医師・地域卒学生 (ほか)

◇ プログラム ◇

12:30	受付開始 ※「Webexミーティング招待状」(2/4(木)頃、システムから各参加者アドレスへ自動配信予定)の「ミーティングに参加する」をクリックしてご参加ください。
13:00	開会挨拶 司会:高田 清式(愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長) 山下 政克(愛媛大学医学部長)
13:05	各県からの事例紹介・報告(発表8分 質疑応答2分) 議題:『地域卒卒業医師の専門医教育とその後の配置について』 ① 鳥取県 福田 裕一郎(鳥取県福祉保健部健康医療局医療政策課係長) ② 島根県 佐野 千晶(島根大学医学部地域医療支援学講座教授) ③ 岡山県 小川 弘子(岡山大学医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座教授) ④ 広島県 松本 正俊(広島大学地域医療システム学講座教授) ⑤ 山口県 宮崎 睦子(山口大学医療人育成センター准教授) 【休憩】 ⑥ 徳島県 山口 治隆(徳島大学大学院総合診療医学分野准教授) ⑦ 香川県 星川 広史(香川大学地域医療教育支援センター長) ⑧ 高知県 脇口 宏(高知地域医療支援センター長) ⑨ 愛媛県 熊木 天児(愛媛大学附属病院地域医療支援センター副センター長) ○ 全体質疑 【休憩】
15:20	地域卒卒業医師からの近況報告 発表者 河野 佑典(愛媛県西条市立周桑病院 内科) " 川又 萌子(愛媛県立今治病院 循環器内科)
	まとめ
15:50	次回開催者ご挨拶
15:55	閉会挨拶 川本 龍一(愛媛大学医学系研究科地域医療学講座教授)
16:00	閉会

地域医療学医科学研究 研究科配属学生の取り組み

1. 講座主任のことば

地域医療に関する研究は、地域医療の現場での体験が重要であり、その中でこそ地域医療の研究課題を描くことが可能となります。中山間地域や離島などへき地を多く抱える愛媛県においては、郡部や島嶼部を中心とした少子・高齢化の著しい進行や世帯構造の変化に伴い、疾病の複雑化、要介護者の増加及び生活習慣病の増加等、県民の保健・医療に対するニーズも多様化・複雑化しています。これら課題に対応するため、現地のニーズに即した地域医療に関する研究を行うことを目指しています。

2. 学生指導医の担当者リスト

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

川本龍一（教授） e-mail: rykawamo@m.chime-u.ac.jp

二宮大輔（助教）

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53（西予市立野村病院）

TEL:0894-72-0180 FAX:0894-72-0938

菊池明日香（総合診療科助教）

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65（久万高原町立病院）

TEL:0892-21-1120 FAX:0892-21-1121

3. 研究室の研究内容

地域における健康維持、疾病分析、治療に関する臨床疫学的調査研究：愛媛県内の地域における臨床疫学的調査を実施し、効果的な手法の開発により地域社会の生活のレベルの向上と住民全体の QOL の向上を図る。

内容

限られた医療資源の中で診断・治療を行う必要があることから、以下のテーマ等についての調査研究を実施し、その成果を地域医療に還元する。

例・風邪などのありふれた健康問題に関する研究

- ・慢性的な症状に対する研究
- ・地域における保健・医療・福祉の連携に関する調査
- ・高齢化社会における課題に関する研究

方法

地域サテライトセンターを中心にフィールドワークを展開し研究にあたる。

4. 医科学研究学生への指導方針

愛媛大学医学部地域医療学講座地域サテライトセンターにて地域住民を対象とした地域医療実習を行いつつ、研究テーマについて現地のスタッフと共に調査研究を行う。

5. 学生の研究内容

- ・遠藤 萌
若い世代の人々の理想の看取りと死に関する意識調査
- ・矢野 友偉
医療供給と健康寿命との関係
- ・金子 祐理菜
健康寿命延伸に寄与する因子の解明

6. 所属する医科学研究学生

1年生：3名

7. 所属学生による感想

近年高齢化が進む中、地域では医師不足や医療崩壊が危惧されています。そのような地域医療に興味があり実際に現場を見て学びたいという思いから、大学の授業カリキュラムの一環である基礎配属で私たちは地域医療学講座に所属しています。総合診療医になるために必要な能力や勉強、医師に限らず医療従事者が不足している地域病院での多職種連携の重要性を強く感じました。一方で地域でも出来る事は多くあることを学び、そこで様々なワークショップやサテライトセンターを利用した Web 勉強会などを積極的に受け、地域に根付いた課題について各自テーマを持ち研究に取り組んでいます。

8. 医科学研究発表会演題リスト

第21回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2021/11/27-28、高知市）

医療供給と健康寿命との関係

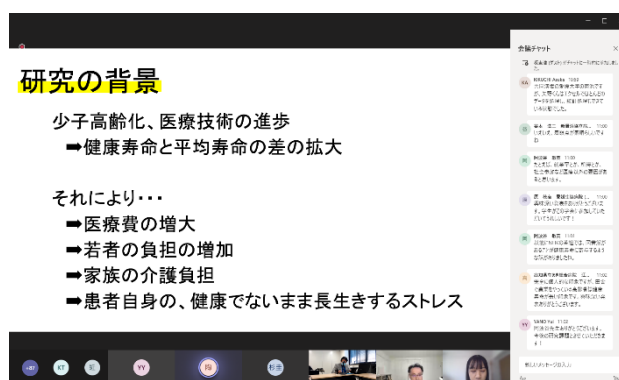
矢野友偉、川本龍一、菊池明日香、徳本良雄、二宮大輔、熊木天児

健康寿命延伸に寄与する因子の解明

金子祐理菜、川本龍一、菊池明日香、徳本良雄、熊木天児、二宮大輔

若者の世代の人々の理想の看取りと死に関する意識調査

遠藤萌、川本龍一、菊池明日香、二宮大輔、熊木天児、徳本良雄



愛媛県主催医学生サマーセミナー

日 時：2021年8月21日(土) 12:15～16:00

会 場：Web開催

令和3年8月21日(土)にサマーセミナーを開催しました。今回の医学生サマーセミナーは、愛媛大学地域枠、自治医科大学、北海道大学、高知大学、岡山大学の医学生、総勢65名が参加しての開催でした。本来なら夏季は地域の医療現場での活動や懇親会を通しての交流が行われる予定でしたが、今年もWeb会議方式で代用させていただきました。

最初はランチョンセミナーとして、愛媛大学医学部附属病院総合診療科助教の菊池明日香先生から先生のお得意分野である「BPSモデルを学ぼう」ということとお話いただきました。人の健康問題の背景にある原因をBiopsychosocial modelでとらえていくことの重要性についてわかりやすく説明いただきました。これは夫婦や恋人同士の会話にも活用できるということでした。

次は、地域医療学講座助教の二宮大輔先生の司会による「地域枠と自治医大卒業生による初期研修医の現状報告」と題してご講演をいただきました。各先生が、それぞれの研修病院で充実した研修生活がおくれている様子や学生時代に何を準備しておけばいいかなど医学生にとって非常に参考になるお話をいただきました。

次の講演では、愛媛県立中央病院 総合診療部長の杉山 圭三先生を司会として愛媛県西条市と八幡浜市の行政官と病院の先生より地域の特徴と魅力などについて現状報告と将来の構想をお話いただきました。前者は工業中心の祭りの盛んな所、後者は柑橘農家の多く、九州と四国を結ぶ港のある所であり、それぞれ初期臨床研修の可能な総合病院を有する地域です。医学生にとって将来の派遣先になりうるどころです。

1. 日 程

○日 時：令和3年8月21日(土) 12:15～16:00

○会 場：WEB会議 (Cisco Webex)

○スケジュール：

時 間	内 容
12:15～12:55 (40分)	ランチョンセミナー (各自昼食を食べながら) 「BPSモデルを学ぼう」 愛媛大学医学部附属病院総合診療科助教 菊池 明日香先生
12:55～13:00 (5分)	休 憩
13:00～13:05 (5分)	開会挨拶 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一先生
13:05～13:30 (25分)	初期研修医の現状報告 司会 愛媛大学医学部地域医療学講座助教 二宮 大輔先生 ・自治医大卒業生 ・愛媛大学地域枠卒業生
13:30～14:15 (45分)	地域医療の現状 行政と病院からの紹介 司会 愛媛県立中央病院総合診療部長 杉山 圭三先生 ・西条市 西条市立周桑病院 ・八幡浜市 市立八幡浜総合病院
14:15～15:20 (65分)	学生発表 「地域医療で、将来こんなことがしたい」 課題説明 愛媛大学医学部地域医療学講座教授 (自治医科大学8期生) 川本 龍一先生
15:20～15:25 (5分)	休 憩
15:25～15:55 (30分)	特別講演 司会 愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長 熊木 天児先生 「卒後のキャリアアップについて」 愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長 高田 清式先生
15:55～16:00 (5分)	閉会挨拶 愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長 高田 清式先生



内 容

ワークショップはできませんでしたが、学生には「地域医療で、将来こんなことがしたい」をテーマに各自1分ほどで述べてもらいました。「地域に溶け込み、患者さんの身近な存在として活動したい」、「在宅医療が行いたい」、「終末期医療に携わりたい」、「病気全般を診れる医師になりたい」などプライマリ・ケアの理念に合った思いを多くの学生が抱いていました。

特別講演では、愛媛大学医学部附属病院総合臨床研修センター長の熊木 天児先生を司会に愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター長の高田 清式先生から「今後のキャリア・アップについて」と題して貴重なお話をいただきました。先生のこれまでの歩みを話された後、愛媛県内における初期研修と後期研修19領域の現状、各プログラムの応募状況、愛媛大学地域枠や自治医大卒業生などのキャリア支援についてわかりやすくお話いただきました。義務後も生涯にわたってキャリアを積んでいける仕組みづくり、研究者や公衆衛生に進む道も用意されていること、学生時代はへき地の医療機関に見学に行くことも将来の糧になるなど先生の経験を踏まえたお話が印象的でした。

サマーセミナー参加前後のアンケート結果 (4段階で肯定的意見の割合) N=41

・地域医療は大変そうである	97.6%	92.7%	<0.001
・地域医療には夢がある	97.6%	100%	<0.001
・地域医療を担う自信がある	82.9%	87.8%	0.006
・将来、愛媛の地域医療に関わりたい。	100%	100%	-----
・地域医療にはやりがいがありそうだ	100%	100%	-----
・地域医療に従事すると医療の進歩に遅れる	24.4%	14.6%	<0.001
・総合医になりたい	78.0%	80.5%	<0.001
・専門医になりたい	63.4%	80.5%	<0.001
・診療所で働きたい	53.7%	68.5%	<0.001
・地域中核病院で働きたい	92.7%	92.7%	-----
・地域診断のような活動は継続すべきである	100%	100%	-----
・地域の健康課題を認識している	56.1%	75.6%	<0.001
・医師不足地域に将来貢献したい	97.6%	97.6%	-----

愛媛大学医学部附属病院総合診療科外来

総合診療科助教 菊池 明日香

総合診療科が発足し今年で6年目となります。日々院内外から貴重な症例をご紹介頂き、非常に多くのことを学ばせて頂いております。診療においても日頃より専門科の先生方にバックアップ頂いており、心強く感じています。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

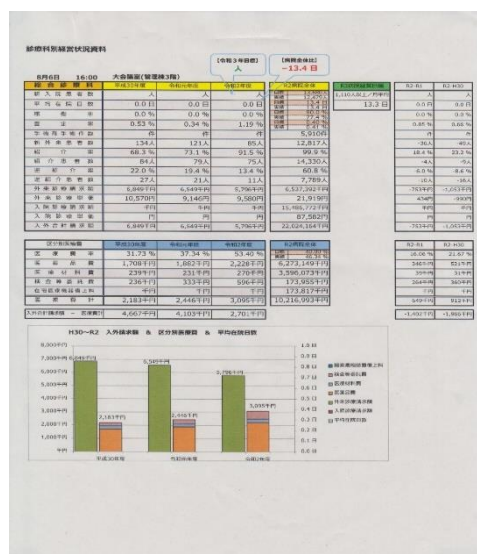
当科を訪れる患者さんの主訴は非常に多彩ですが、例年、不明熱や全身倦怠感、そして身体痛を主訴に来院される方が多くを占めます。昨年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延を受け、他院からの紹介患者さんはやや減少しましたが、他方でワクチン接種後のタイミングで現れた様々な症状を心配され、受診される患者さんが一定数存在しました。オミクロン株の流行がピークを越えた頃より、例年通りの紹介状況となった印象です、

外来での精査で、感染症、膠原病、悪性疾患、内分泌疾患、筋骨格疾患など診断に至る場合もありますが、一方で器質的な異常が無いにもかかわらず症状が継続する、といった患者さんも一定数存在します。そのような患者さんは多くの場合、当科受診前に複数の医療機関をすでに受診され、異常が無いとの評価を受けていることが多い印象です。ただ当科では器質的な異常がない場合も、本人の苦痛や悩みを丁寧に聴取し、患者さんの生活環境、社会背景に潜む問題を言語化するよう継続的に支持するといった介入を継続して実践することが多く、そのような対応により症状が消失する場合があります。全人的医療の提供を目標に日々邁進しております。

今後も専門科の先生方のお力添えを頂くことが多いかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

外来診療表

月	火	水	木	金
菊池 明日香	二宮 大輔	菊池 明日香	川本 龍一	熊木 天児



総合診療科

－ 地域を舞台に学ぶ Enjoy learning medicine in your community ! －

① 総合診療科とは？ What is Diagnostic and General Medicine?

総合診療科とは、専門化・細分化しすぎた現代医療の中で、全人的に人を捉え特定の臓器や疾患に限定せず多面的に診療を行う部門です。また、外来初診の「症状」のみの患者に迅速かつ適切に「診断」をつける科でもあります。

地域における高齢化やそれに伴う疾病の複雑化、要介護者の増加、生活習慣病の増加等、国民を取り巻く健康問題は近年益々多様化しています。このような現状のなか地域住民のニーズには疾病の診療にとどまらず、家族・職場・地域を視野に入れた幅広い医療活動が強く求められています。総合診療科では地域に根付いた教育と研究、診療活動を行いうる総合診療専門医の育成を目指しています。

② プログラムの目的と特徴 What you can learn are…

● 研修場所について where to practice ?

主な研修場所は地域における救急を含む一次/二次医療を担当する一般病院です。紹介に片寄ることなく、初診を含め広く外来受診・入院を受け入れています。救急を含む common disease や common problem を十分に経験する機会を保障しています。臓器別専門病棟でなく混合病棟での研修で学ぶため、指導医も臓器別専門医として指導をするのでなく、総合医として各科研修期間を一貫して指導にあたります。

患者の諸問題から出発して学習をすすめる問題指向型学習 Problem-based Learning を行いやすい環境を保障しています。

● 地域医療と多職種連携 Rural medicine / Community-Based integrated care system

いずれの研修病院も地域医療を担ってきた歴史をもち、往診活動、保健予防活動などを展開しています。病棟医療だけでなく様々なフィールドにおける研修が可能であり地域の保健・医療・福祉サービスの理解など、プライマリ・ケアの視点を身につけるのに適した環境を保障しています。

医師カンファレンスだけでなく各種メディカルスタッフの参加するケースカンファレンスを定期的に行なっており、各種スタッフと協力して医療を行うチーム医療の姿勢を身に付けるのに適した環境を保障しています。

● 研修医の先生を大切に育てます。学習環境も整備しています。

研修医自身のプログラム実践への関与が可能です。屋根瓦方式を取り入れており上級医とともに学ぶことが可能です。研修医が精神的、身体的に健康な状態であつ経済的余裕をもって研修に専念できるように、適切な休暇・給料を保障しています。Up to date[®]の使用、大学のネットワーク環境を利用した文献検索が可能であり自己学習や EBM を実践できる環境を保障しています。

補足) 当プログラムでは、臨床研修を修了した3年目の医師向け「総合診療科専門研修コース」と臨床経験5年以上の「地域医療生涯研修コース」を用意しています。



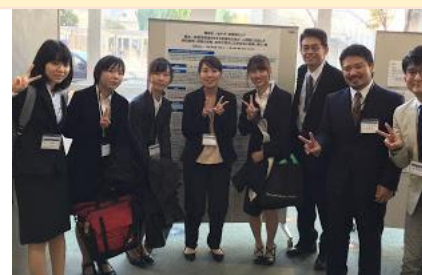
③ 経験目標 What is the coal of your training ?

地域医療を担う医師には、一般的な疾患の診断と治療、慢性疾患の管理、急性疾患の対応、訪問診療など在宅医療や介護保険への関わり、疾病予防（健康診断、予防医学）学校医や産業医活動など多岐にわたる対応が求められます。地域が異なれば住民のニーズも異なります。当プログラムでは、あらゆる地域のあらゆる患者に対し、全人的な医療を提供できる総合診療医・家庭としての技能の習得を目指しています。プログラムを修了した暁には、医師は地域住民と患

者のニーズに的確に応え、合理的で温かな信頼される保健医療サービスを自ら提供できるようになり、幅広い分野の人々と協働できる医師へと成長することが期待されます。

④ 指導医と指導体制 Staff Introduction

- 川本龍一（教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本老年医学会専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医・指導医、日本超音波医学会専門医・指導医、米国内科学会上級会員、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- 熊木天児（准教授：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会専門医・指導医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、厚生労働省指定卒後臨床研修指導医）
- 二宮大輔（助教：日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医、日本内科学会認定医）
- 菊池明日香（助教：日本プライマリケア連合学会 所属 総合診療科 専攻医）



（学会発表での様子）

⑤ 研修に関する行事 Daily schedule

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟	外来・病棟	外来・病棟	訪問診療	外来・病棟
PM	抄読会	病棟カンファ 褥瘡回診	画像勉強会 健康教室	地域連携 カンファ	病棟カンファ 総回診

- ・学会発表 年1回以上
- ・原著論文作成
- ・外部研修会への参加
- ・卒前教育（学生さんの指導にも携われることができます）

⑥ 新専門研修プログラム New Board Certificated General Practitioner

1・2年目 3年目 4年目 5年目

総合診療科 専門研修プログラム		家庭医療専門医 総合診療科専門医
初期 臨床研修	<ul style="list-style-type: none"> ● 総合診療 I（12ヶ月） ● 総合診療 II（6ヶ月） ● 内科ローテート（12ヶ月） ● 救急科ローテート（3ヶ月） ● 小児科ローテート（3ヶ月） 	
臨床研修 病院	地域中核病院・地方病院・診療所 その他(大学、市中病院、サテライト施設)	



★ 大学 ★ サテライト施設

⑦ 専門研修終了後 After you finished the program...

個人の希望に応じて、愛媛大学の関連病院での勤務、大学院進学が可能です。

⑧ 専門研修の問い合わせ先 Feel free to contact us !!

愛媛大学医学部附属病院総合診療科（地域医療学講座）下記 HP よりお気軽にお問い合わせください。

<https://www.m.ehime-u.ac.jp/school/community.med/>

Tel: 0894-72-0180 Fax: 0894-72-0938

初期研修

昨年と同様に地域医療学講座のメンバーが外来診療や当直などを通してサテライトセンターで診療支援を行っています。サテライト化により大学よりの研修医が徐々にではありますが増えています。本年度は、コロナ禍の影響で自治医科大学からの研修医は受け入れができず、残念でした。

初期臨床研修 2年目の地域医療研修

西予市地域サテライトセンター：愛媛大学附属病院 4名、松山赤十字病院 2名、
今治済生会病院 3名

初期臨床研修 2年目の地域医療研修の感想

太田研修医 (2021/05/06-28)

先生方はじめスタッフの皆さんには、優しく接していただき感謝しています。検査などの手技だけでなく、救急車対応や入院患者さんの治療方針決定など多くのことに主体的に取り組ませていただき大変勉強になりました。外来診療を行う機会がもう少し欲しかったですが、訪問診療や診療車など初めて触れることができ、実情を知ることができました。

学んだことを今後活かしていきたいです。

一ヶ月間、ありがとうございました。

竹澤研修医 (2021/06/14-07/23)

一ヶ月半、大変お世話になりました。入院判断や一次、二次の救急車対応などしっかり学びとることができました。退院環境調整や地域の在宅がもっと学べるとよかったかなと思いますが、研修医を育てようという先生方の気持ちがかかなり伝わってきてとても勉強になりました。また野村の方々とお会いできるのを楽しみにしています。

ありがとうございました。

福本研修医 (2021/07/26-09/17)

研修目標としていた外来診療や訪問診療を数多く経験できました。地域のニーズに応えるために、幅広く内科疾患を診療していることがわかりました。また、専門性の高い医療が必要な時は、各医療機関との連携が大切になると実感しました。

外来での経過や自宅での患者さんの生活状況など、今回学んだことを今後に活かしていきたいと思います。先生方、スタッフのみなさんありがとうございました。

山内研修医 (2021/09/20-10/15)

一ヶ月間、お世話になりました。移動診療車など、地域ならではの医療形態を経験することができました。医学的な管理のみならず、退院後のサポートや医療資源についても考えることができすごく良い経験となりました。

今回の研修で学んだことを忘れず、今後の診療に活かしていきたいと思います。

ありがとうございました。

川上研修医 (2021/10/18-11/12)

訪問診療、移動診療車、診療所と病院だけでなくいろいろな場面での診察をさせていただく中で、地域医療の現場を勉強することができたと感じました。経験症例も非常に多く、各症例で学ぶことが多かったです。内視鏡なども検査日を設けていただいたことで、集中して研修できたと思います。

研修医に対して、患者さんから頼っていただいたこと、とても嬉しかったです。

短い期間でしたがありがとうございました。

高本研修医（2021/10/18-12/10）

外来、病棟、診療車や訪問診療など地域に根ざした診療を学ぶことができました。地域の特色や人間関係、介護する側の負担を考えて診ていかないといけないため、大学とは違った医療のあり方を勉強できました。今後もこの研修で学んだことを活かせる医師になりたいと思います。二ヶ月間、ありがとうございました。

山邊研修医（2021/12/13-2022/01/07）

短い期間でしたがお世話になりました。地域医療の深さに触れ、驚いたり、頭を悩ませたりしましたが大変勉強になったことは確かです。多職種連携が実際にどのように行われているか、また、地域に“出ていく”医療が体験できました。また皆さまと仕事させていただく機会があればと楽しみにしております。いろいろとありがとうございました。

川本研修医（2022/01/11-02/04）

研修目標としていた外来診療を数多く経験できました。患者さんの病気だけでなく、生活環境や家族構成を把握することの重要性を学び、移動診療車や訪問診療など地域ならではの医療形態を知れ、また実際にそれらに携わることができ大変勉強になりました。一ヶ月という短い期間でしたが、とても濃密な時間になりました。今後の医師人生にも役立てていきたいと思います。ありがとうございました。

富田研修医（2022/02/14-03/04）

訪問診療や診療所での診察を通して、地域医療の在り方、また、慢性期の医療、退院時期の決定、退院後の療養をどのように行っていくかの過程を学ぶことができました。内視鏡や超音波検査も主体的にさせていただき、内容の濃い研修となりました。病院一体となり地域医療に取り組む姿は学ぶべきことが多く、今後の糧にしていきたいと思います。お世話になりました。



2021年度 地域医療学講義内容

後期課程 28コマ 6時限：15:20-16:20

日時	時限	テーマ	所属	担当医師
10月14日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「総合診療（家庭）医活動のマインド」	地域医療学	川 本
10月15日 金曜日	6時限	地域医療の理論 「ライフサイクルと健康」	地域医療学	二 宮
10月21日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「地域医療における解釈モデルの活用」	地域医療学	川 本
10月22日 金曜日	6時限	地域医療の理論 「地域医療でのEBMとNBMの基礎」	地域医療学	川 本
10月28日 木曜日	6時限	地域医療の理論 「患者さんの視点」	地域医療学	菊 池
10月29日 金曜日	6時限	地域医療の理論 「地域医療における面接技法」	地域医療学	二 宮
11月4日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「地域医療でのEBMとNBMの実践」	地域医療学	川 本
11月5日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「地域における医療資源の活用」	地域医療学	二 宮
11月11日 木曜日	3時限	地域医療の実践 「地域医療における多職種連携活動」	地域医療学	川 本
11月18日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「高齢者医療と福祉」 Web開催	非常勤講師	大原（川本）
11月19日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「家庭医による禁煙活動」（ビデオ）	非常勤講師	加 藤
11月25日 木曜日	3時限	地域医療の実践 「総合医と専門医の役割」	地域医療学	徳 本
11月26日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「身体診察の基本」	地域医療学	菊 池
12月2日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「地域医療での生活習慣病と行動変容」	地域医療学	川 本
12月3日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「地域医療での予防医療活動」	地域医療学	川 本
12月9日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「在宅医療」	地域医療学	川 本
12月10日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「コミュニケーション」	地域医療学	菊 池
12月16日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「在宅終末期医療」	地域医療学	川 本
12月17日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「病院運営と患者ケア」	学部内非常勤講師	宮 岡
12月23日 木曜日	3時限	地域医療の実践 「地域医療における腹痛診療」	地域医療学	徳 本
12月24日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「地域医療での心のケア」	非常勤講師	山 岡
1月7日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 1」	地域医療学	菊 池
1月14日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 2」	地域医療学	二 宮
1月20日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 3」	地域医療学	川 本
1月20日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「バングラデシュでの医療活動」	非常勤講師	宮川（川本）
1月21日 金曜日	6時限	地域医療の実践 「地域医療における研究活動」	地域医療学	川 本
1月27日 木曜日	6時限	地域医療の実践 「日常病と臨床推論 4」	地域医療学	徳 本
1月28日 金曜日	6時限	テスト	地域医療学	川 本

2021年度 地域医療ワークショップ（地域枠対象）

日時	曜	対象	内容	人数
4月28日	木	第156回：地域枠1年生	自己紹介	14
5月6日	木	第157回：地域枠1年生	愛媛の地域医療	17
5月13日	木	第158回：地域枠3年生	医局について	17
5月20日	木	第159回：地域枠1年生	キャリア形成について	15
6月3日	木	第160回：地域枠1年生	総合診療医	15
6月17日	木	第161回：地域枠1年生	総合診療医活動	16
7月1日	木	第162回：地域枠1年生	プロ意識	14
7月15日	木	第163回：地域枠1年生	先輩からのメッセージ	17
7月29日	木	第164回：地域枠1年生	プロ意識	15
8月21日	土	地域枠：全学年	サマーセミナー：愛媛の地域医療	17
10月7日	木	第165回：地域枠1年生	プロフェッショナリズム	16
10月21日	木	第166回：地域枠1年生	日本の医療制度1	11
11月4日	木	第167回：地域枠1年生	日本の医療制度2	10
11月18日	木	第168回：地域枠全員	地域に出るまでの不安だったこと、困ったこと、今思うこと	12
12月9日	木	第169回：地域枠1年生	臨床倫理	8
12月16日	木	第170回：地域枠1年生	多職種連携活動DVD鑑賞と意見交換	9

地域枠1年生の自己紹介の様子

＊本年度の地域医療ワークショップでは、すべてリモートでの集まりとなってしまいました。学生が集まりやすい時間の設定も難しく、次第に顔も見えない状況でのワークショップとなり、継続の難しさを感じました。一方、現場で活躍する先生のお話が聴きたいとの要望もあり、Web形式での講演会を開催しました。愛南町と野村町から地域で活躍する医師からのリアルタイムの発信で学生からも多くの質問がなされました。こうした試みはWebならではの利点として今後も続けていきたいと思えます。



第5学年臨床実習

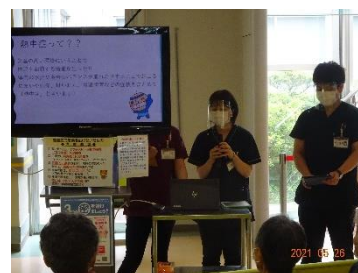
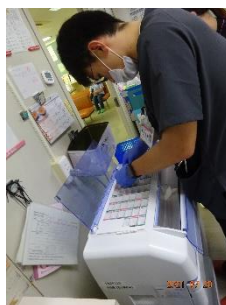
(2020/11/24 開始：5班～12班は2020年度実習)

1班	大西 修平	乙井 遥希	竹口 有咲	前川 結	三好 健太	
2班	門脇 史歩	二神 拓也	森岡 大河	山本 早紀	辻本 拓眞	
3班	稲富 梨紗	菊地 聡太	齋藤 舞	曾我 真礼	湯川 広起	
4班	河合 太智	近藤 壮	高須 彩希	田島 麗	森 健人	
5班	齋藤 一沙	田尻 郁哉	松木 和樹	清水 麻衣	村上 詩歩	
6班	岡 詠吾	川瀬 雅人	中山 義基	石田 茉莉夏	玉井 愛美	
7班	田中 琢磨	溝上 元樹	森田 悟	川上 夏葵	岸塚 有未	
8班	亀岡 潤也	俊成 辰郎	佐々木 康介	富田 瑞葉	山口 りさこ	
9班	稲葉 翔也	小西 史哲	得居 省汰	井上 潮音	高山 理彩	
10班	佐藤 安里紗	谷本 玲奈	橋本 侑樹	日浦 雄太	矢野 秀幸	
11班	宇都宮 裕士	須崎 稜太	長谷川 豪	渡辺 みのり	渡部 美和	
12班	宇都宮 諒	下見 怜央	武田 悠吾	石川 英里	花岡 由理子	
13班	高倉 史考	高橋 昂暉	横井 貴大	小野 真理	樋口 希	
14班	稲塚 朱音	栢原 未帆	西田 瑞希	明石 久輝	宮内 崇裕	
15班	石嶋 竜大	久富木 政弥	新田 真規	石原 奈々世	須之内 真琴	宮内 恭太
16班	宇佐 英香	宇都宮 志織	升 瞳碧	門田 恭平	韓 彰仁	藤本 拓人
17班	川端 俊介	谷 幹雄	團 優樹	岩下 佳代	遠香 董	森定 なずな
18班	河合 琴美	窪田 悠真	田村 弘樹	大政 洸星	寄岡 佳英	森 愛絵
19班	石原 昂明	清岡 大祐	三輪田 高房	木原 奈那子	中矢 日奈子	吉本 奈央
20班	長濱 晴彦	兵頭 美咲	三谷 雄樹	大山 杏紗	久保 香織	松木 啓哉
21班	嶋田 匡志	野村 崇良	高月 駿	川添 綾子	小原 典子	藤井 香織

第4学年臨床実習

(2021/11/22 開始：2022/4/1 実習済班)

5班	太田 紗貴	山本 夏希	篠田 瑛	廣井 直也	矢部 智己
6班	片山 真暉	田和 優佑	豊田 涼華	武井 健悟	西田 暁枝
7班	中田 康仁	矢形 洸貴	近藤 均	片桐 晴子	高橋 杏奈
8班	金杉 守	岸本 良	中西 琉音	大島 未麗	勝浦 万貴
9班	江原 秀大	山口 聡允	吉川 大悟	大山 彩加	早瀬 絵理香
10班	高木 弘毅	濱田 遼	三橋 慧	越智 ももこ	篠崎 舞子
11班	井手 努	押川 輝	細川 隼登	小林 えれな	山根 未久
12班	佐藤 信	富田 将太郎	正岡 幸史朗	坂川 七海	中村 伸子



論文名：日本人 2 型糖尿病患者における好中球リンパ球比は腎機能障害の予測因子になり得る

要約

【背景】

糖尿病性腎疾患（DKD）は、糖尿病のもっとも深刻な合併症のひとつである。DKD は、微量アルブミン尿、顕性アルブミン尿、糸球体濾過量（GFR）の低下を経て、末期腎疾患に移行する。DKD の発症には、危険因子（年齢、性別、人種、家族歴など）、開始因子（高血糖など）、持続因子（肥満、高血圧、脂質異常、炎症性サイトカイン、酸化ストレスなど）などの異なる因子を含む複数の因子が病態に関与しているとされている。この DKD は慢性腎臓病（CKD）の主要な原因であるため、修正可能な因子を管理することができれば、CKD への以降を未然に防ぐことが可能と考えられる。したがって、簡便に利用できる DKD の予測因子は有用である。そこで、本研究では、市中病院の検査室で簡便に検査できる指標のひとつである好中球-リンパ球比（NLR）に着目し、NLR が 2 型糖尿病患者の DKD の予測因子となるという仮説を疫学的に検証することを目的とした。

【方法】

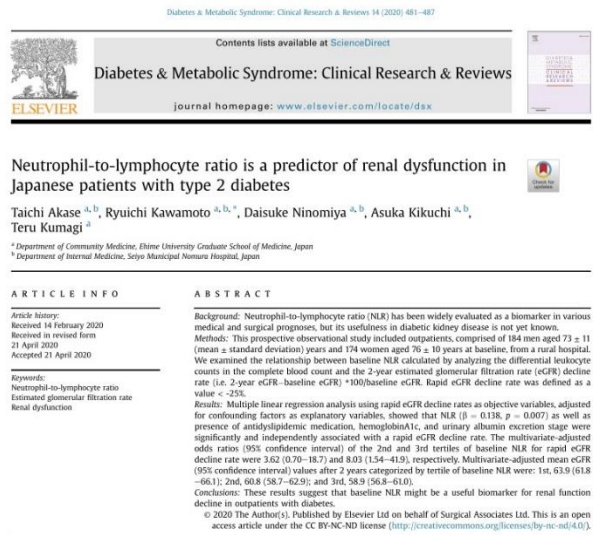
本研究の被験者は、2017 年 4 月から 6 月にかけて、病院の診療科を受診した 358 人の 2 型糖尿病患者とした。本研究はヘルシンキ宣言を遵守し、被験者から書面によるインフォームドコンセントを得ている。また、愛媛大学倫理委員会の承認を得ている。評価は、ベースライン NLR を三分位（第 1 三分位: 0.65~1.57、第 2 三分位: 1.58~2.32、第 3 三分位: 2.33~15.3）し、それぞれの群に関して、「eGFR の低下率」: $\{(2 \text{ 年後の eGFR 低下率} - \text{ベースライン eGFR}) / \text{ベースライン eGFR}\} \times 100$ と「急速な eGFR 低下率」: $(2 \text{ 年後の eGFR 低下率} < -25\%)$ との関連性を単変量解析と多変量解析によって比較検討した。

【結果】

第 2 三分位と第 3 三分位の NLR のベースライン値と 2 年後の eGFR は第 1 三分位に比較して有意に低かった。2 年後の eGFR 値はすべての群でベースラインの eGFR と比較して有意に低かった。「急速な eGFR 低下率」が生じたのは、第 1 三分位で 1.7%、第 2 三分位で 8.4%、第 3 三分位で 13.4%と有意に増加した。NLR、年齢、尿中アルブミン（UAE）ステージは「急速な eGFR 低下率」と有意に相関していた。ベースライン時の交絡因子を調整した回帰分析では、NLR、脂質異常症薬の服用の有無、HbA1c 値、UAE ステージはそれぞれ独立して「eGFR の低下率」と有意に関連していた。

【結論】

本研究では 2 型糖尿病患者のベースライン NLR が、様々な交絡因子とは独立して、「eGFR の低下率」と「急速な eGFR 低下率」と有意に関連していたことから、DKD の発症の予測に有用な予測因子となることが示された。



1. Introduction

Diabetic kidney disease (DKD) is the leading cause of chronic kidney disease (CKD) worldwide and one of the most serious complications of diabetes [1]. DKD still develops in approximately 30% of patients with type 1 diabetes and approximately 40% of patients with type 2 diabetes [2–4]. DKD is considered to begin from early glomerular hyperfiltration, followed by the development of microalbuminuria, macroalbuminuria, and then declined glomerular filtration rate (GFR), and ultimately, end stage renal

disease (ESRD). Approximately 20–30% of the patients develop microalbuminuria after 15 years of having the disease and less than half develop end stage nephropathy [5]. Several pathophysiologic pathways, including risk factors (e.g. age, male gender, race, and family history), initiating factors (e.g. hyperglycemia, which is the most important), and perpetuating factors (e.g. obesity, hypertension, dyslipidemia, inflammatory cytokines, oxidative stress), are involved in the development of DKD [6]. Management of the modifiable risk factors might help in reducing its incidence soon.

Recently, many studies have identified new pathways involved in the onset and progression of DKD and have shown an important role of inflammation in the pathogenesis of DKD [7,8]. Proposed inflammatory indices, such as C-reactive protein (CRP) levels, neutrophil-to-lymphocyte ratio (NLR), and platelet-to-lymphocyte ratio (PLR), have been considered useful indicators and cost-effective tests that can be easily measured in the laboratory.

* Corresponding author. Department of Internal Medicine, Seiyu Municipal Nomura Hospital, 5-53 Nomura, Nomura-city, Ehime, 797-1212, Japan. E-mail addresses: taichi.akase@seiyu.ac.jp (T. Akase), ryuichi.kawamoto@seiyu.ac.jp (R. Kawamoto), daisuke.ninomiya@seiyu.ac.jp (D. Ninomiya), asuka.kikuchi@seiyu.ac.jp (A. Kikuchi), teru.kumagi@seiyu.ac.jp (T. Kumagi).

https://doi.org/10.1016/j.dsx.2020.04.029
1871-4021/© 2020 The Author(s). Published by Elsevier Ltd on behalf of Surgical Associates Ltd. This is an open access article under the CC BY-NC-ND license (http://creativecommons.org/licenses/by-nc-nd/4.0/).

業 績

【原著】

Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, Ninomiya D, Tokumoto Y, Kumagi T.

Alcohol consumption and serum uric acid are synergistically associated with renal dysfunction among community-dwelling persons.

J Clin Lab Anal. 2021; 35(6): e23812.

Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, Ninomiya D, Kumagi T.

Low density lipoprotein cholesterol and all-cause mortality rate: findings from a study on Japanese community-dwelling persons.

Lipids Health Dis. 2021; 20(1): 105.

Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, Ninomiya D, Kumagi T.

Thigh circumference and handgrip strength are significantly associated with all-cause mortality: findings from a study on Japanese community-dwelling persons.

Eur Geriatr Med. 2021; 12(6): 1191-1200.

Kawamoto R, Kikuchi A, Akase T, Ninomiya D, Kumagi T.

Handgrip Strength is Associated with Hypertension among Middle-Aged and Older Community-Dwelling Persons

Intern J Geron 2021; 15(3): 260-265.

Miyake Y, Tanaka K, Senba H, Hasebe Y, Miyata T, Higaki T, Kimura E, Matsuura B, Kawamoto R.

Education and household income and carotid intima-media thickness in Japan: baseline data from the Aidai Cohort Study in Yawatahama, Uchiko, Seiyo, and Ainan

Environ Health Prev Med. 2021; 26(1): 88.

【症例報告】

Kawamoto R, Kikuchi A, Ninomiya D, Kumagi T.

Clubbed Digits Presumably Caused by Lubiprostone.

Intern Med. 2021;60(15):2499-2502. 1.

【総説】

徳本 良雄、日浅 陽一

肝硬変診療ガイドライン 2020 栄養療法フローチャート

臨床栄養 139:433-439,2021.

徳本 良雄、日浅 陽一：各論

薬物性肝障害（非免疫関連）の診断と治療

肝臓クリニカルアップデート 7:1-8,2021.

徳本 良雄、日浅 陽一

肝疾患における両立支援

消化器・肝臓内科 10:590-597,2021.

徳本 良雄、日浅 陽一

高齢者における代表的消化器疾患とその治療 肝硬変・肝細胞がん

内科 128:843-848,2021.

【著書】

徳本 良雄、日浅 陽一

薬物性肝障害

中島淳編 最新ガイドラインに基づく消化器疾患 診療指針 2021- '22 : 232-238, 2021.

総合医学社

【学会発表】

第 22 回日本病院総合診療医学会総会（2021/02/19～02/20、Web 開催）

ルビプロストンによって引き起こされたばち指の 1 例

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、熊木 天児

第 117 回日本消化器病学会総会（2021/04/15～04/17、東京）

シンポジウム

肝硬変：新ガイドラインの評価と集学的治療の最前線

C 型非代償性肝硬変に対する肝移植を考慮した DAA 治療時期の検討

徳本 良雄、吉田 理、日浅 陽一

両立支援に関する当院の取り組み

柴田 沙紀、徳本 良雄、大野 陽子、野本 由佳、武市 真由美、塩見 美幸、坂本 ゆり、

渡辺 崇夫、廣岡 昌史、日浅 陽一

愛媛県における肝炎医療コーディネーター養成と活動の現状

柴田 沙紀、徳本 良雄、渡辺 崇夫、日浅 陽一

第 12 回日本プライマリ・ケア連合学会 (2021/05/12～05/23、Web 開催)

糖尿病性舞踏病の一例

菊池 明日香、赤瀬 太一、二宮 大輔、徳本 良雄、熊木 天児、川本 龍一

地域在住者において ベースライン時握力と大腿周囲径は、死亡の予測因子である

川本 龍一、菊池 明日香、赤瀬 太一、和田 悠、二宮 大輔、熊木 天児、大塚 伸之

第 64 回日本糖尿病学会総会 (Web 開催) (2021/05/20～05/22、Web 開催)

地域在住者においてアルコール摂取は血清尿酸による腎機能低下に対して保護効果
を有する

川本 龍一、二宮 大輔、菊池 明日香、和田 悠

第 63 回日本老年医学会学術集会 (2021/06/11～07/04、Web 開催)

地域在住者において握力は 血清尿酸による腎機能低下に 対して交互作用を有する

川本 龍一、二宮 大輔、楠木 智

第 57 回日本肝臓学会総会 (2021/06/17～06/18、東京)

シンポジウム

肝硬変のトータルマネジメント-QOL 改善と予後延長を目指して
リファキシミン治療における肝硬変の合併症と治療効果

行本 敦、徳本 良雄、日浅 陽一

愛媛県伊予市の肝がん撲滅を目指した肝炎対策のあゆみと今後の展望

岡市 真由美、中岡 尚子、篠原 知美、渡辺 崇夫、徳本 良雄、日浅 陽一

第 115 回日本消化器病学会四国支部例会 (2021/06/19～06/20、高知)

EB ウイルスによる急性肝炎が持続し EB ウイルス関連リンパ増殖性疾患(EBV-LPD)との
鑑別を要した 1 例

川野 萌、吉田 理、砂金 光太郎、行本 敦、中村 由子、田中 孝明、渡辺 崇夫、小泉
洋平、徳本 良雄、廣岡 昌史、阿部 雅則、萩原 宏明、鈴木 誠祐、日浅 陽一

日本消化器病学会四国支部 第 39 回教育講演会 (2021/07/04、東温市)

肝硬変の合併症評価とトータルマネジメント

徳本 良雄

第 36 回日本臨床栄養代謝学会学術集会（2021/07/21～07/22、神戸ポートピア+Web 開催）

尿酸と尿酸変化はメタボリックシンドロームの独立予測因子である

川本 龍一、片山 雪江、中岡 友香

第 23 回日本病院総合診療医学会学術総会（2021/09/18～09/19、Web 開催）

地域在住者において低 LDL コレステロールはすべての原因による死亡率増加のリスク因子である

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、熊木 天児

第 25 回日本肝臓学会大会（2021/11/04～11/05、神戸）

パネルディスカッション

肝移植医療－内科と外科の融合－

急性肝不全に対する肝移植を含めた診療連携体制

徳本 良雄、吉田 理、日浅 陽一

第 116 回日本消化器病学会四国支部例会（2021/11/20～11/21、徳島）

食道静脈瘤出血を契機に多発性の肝偽小葉壊死を来した 1 例

中西 智紀、行本 敦、徳本 良雄、岡崎 雄貴、砂金 光太郎、中村 由子、渡辺 崇夫、小泉 洋平、吉田 理、廣岡 昌史、竹下 英次、阿部 雅則、日浅 陽一

第 21 回日本プライマリ・ケア連合学会四国支部総会（2021/11/27-28、高知市+ Web 開催）

医療供給と健康寿命との関係

矢野 友偉、川本 龍一、菊池 明日香、徳本 良雄、二宮 大輔、熊木 天児

健康寿命延伸に寄与する因子の解明

金子 祐里菜、川本 龍一、菊池 明日香、徳本 良雄、熊木 天児、二宮 大輔

若者の世代の人々の理想の看取りと死に関する意識調査

遠藤 萌、川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、熊木 天児、徳本 良雄

医療機関連携により速やかに症状が軽快した、うつ滞性皮膚炎の 1 例

菊池 明日香、二宮 大輔、徳本 良雄、熊木 天児、川本 龍一

第 125 回日本内科学会四国地方会（2021/12/05 Web）

関節リウマチに対するメトトレキサートの長期投与により肝硬変に至った 1 例

菰田 裕也、渡辺 崇夫、小泉 洋平、吉田 理、徳本 良雄、廣岡 昌史、竹下 英次、阿部雅則、日浅 陽一

令和3年度日本肝臓学会肝炎医療コーディネーター研修会（2021/12/06～12/20）

愛媛県状況と愛媛県肝炎医療コーディネーター

徳本 良雄

肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業

徳本 良雄

肝疾患治療の進歩

徳本 良雄

【研究会】

肝硬変・門脈圧亢進症に伴う肺高血圧症 PoPH 愛媛 Web セミナー（2021/05/31 Web）

門脈圧亢進症に伴う肺合併症

徳本 良雄

第1回 治療と仕事の両立支援セミナー（2021/06/14 Web）

当院における肝疾患の就労・両立支援の現状

徳本 良雄

愛媛肝硬変 WEB カンファレンス ～肝性脳症の治療を考える～（2021/07/07 Web）

肝性脳症の治療効果に影響する因子の検討

徳本 良雄

肝疾患連携フォーラム in 愛媛 ～臨床検査技師編～（2021/07/24 Web）

肝疾患のチーム医療～ウイルス性肝炎に対する臨床検査技師の役割とは～

徳本 良雄

愛媛プライマリ・ケア研究会（2021/08/31、Web 開催）

糖尿病性舞踏病の1例

菊池 明日香、二宮 大輔、徳本 良雄、熊木 天児、川本 龍一

【講演会】

第11回中四国地域医療フォーラム プレ集会（Web 開催）（2021/02/04、東温市）

「地域医療学講座の今後と課題」

川本 龍一

令和2年度長寿研究成果発表会（Web開催）（2021/03/02、下野市）

山間地域における生活習慣病に関する研究

川本 龍一、大塚 伸之

愛媛大学公衆衛生特別講義（Web開催）（2021.04.23、東温市）

地域医療における公衆衛生活動

川本 龍一

地域保健医療持論 愛媛県立医療技術大学での講演（2021/05/15、松山市）

「愛媛の地域医療の現状と課題」 地域医療の経験から語る

川本 龍一

令和元年度地域志向教育研究支援事業（Web開催）（2021/06/03、松山市）

愛媛県医師不足地域における地域包括ケア実習

川本 龍一

愛媛県歯科医師会 ラジオ糖尿病セミナー（2021/07/22、ラジオ南海）

糖尿病とがん

川本 龍一

令和2年度地域協働教育研究支援事業のヒアリング審査（2021/07/26、松山市）

愛媛県医師不足地域におけるコロナ禍の地域医療実習の検討

川本 龍一

自治医科大学高校説明会（2021/07/27、八幡浜市）

愛媛の地域医療の現状

川本 龍一

自治医科大学高校説明会（2021/07/28、宇和島市）

愛媛の地域医療の現状

川本 龍一

令和3年度愛媛県医学生サマーセミナー（Web開催）（2021/08/21）

「出身地の地域医療を考える」

川本 龍一

いきいき健康大学（2021/10/02、西予市）

「糖尿病予防の話」 「血糖をコントロールするには」

川本 龍一

西予市多職種連携地域包括ケア研究会（Web 開催）（2021/10/29、西予市）

地域における ACP 活動 1

川本 龍一

愛媛県 ノバルティスファーマ株式会社 愛媛のハート、まもりたいけん（2021/11/12、FM愛媛）

「お父さん、お母さん、体に気を付けて！」

川本 龍一

地域住民に向けて 市民フォーラム（2021/11/16、西予市）

今こそ学ぼう！ 感染の予防と付き合い方

川本 龍一

広島大学医学部：地域医療の総論から各論（Web 開催）（2021/11/27）

地域医療マインド

川本 龍一

いきいき健康大学（2021/12/07、西予市）

「糖尿病予防の話」 「血糖の合併症をコントロールするには」

川本 龍一

西予市多職種連携地域包括ケア研究会（2021/12/15、西予市）

地域における ACP 活動 2

川本 龍一

【その他】

Medical Tribune に掲載（2021/07/15）

死亡の予期因子 握力と大腿周囲径は死亡の有用な予測因子 地域住民を 6 年間追跡

Health Day News に掲載（2021/07/07）

尿酸値が高い人は適度な飲酒が腎臓に良い？—国内地域住民の横断研究

【座長】

川本 龍一

第5回日本臨床薬理学会中国・四国地方会（2021/07/03、Web開催）

レギュラトリーサイエンスの支援体制と働き方改革

2021年度地域医療学講座主催 地域医療夏季サマーセミナー（2021/08/21、Web開催）

「医療から見たまちづくりー各参加市町の医療とまちー」

自治医科大学と愛媛大学地域卒学生他

第21愛媛プライマリ・ケア研究会（2021/08/31、Web開催）

「地域医療を育てる～次世代の人材育成」

高知大学医学部家庭医療学講座教授 阿波谷 敏英先生

日本イーライリリー株式会社 糖尿病オンラインセミナー（2021/10/19、Web開催）

「腎症抑制を目指したこれからの糖尿病治療」

大阪医科薬科大学医学部腎臓内科教授 美馬 晶先生

西予市多職種連携地域包括ケア研究会（Web開催）

地域における褥瘡対策（2021/01/13、西予市）

西予市立野村病院皮膚・排泄ケア認定看護師 小田原 恵先生

地域における糖尿病対策（2021/02/17、西予市）

西予市立野村病院糖尿病認定看護師 二宮 里香先生

地域で取り組むコロナワクチン接種（2021/03/17、西予市）

西予市立野村病院副院長 大塚 伸之先生

「地域で取り組む在宅リハビリテーション」（2021/04/28、西予市）

西予市立野村病院理学療法士 河野 博邦先生

地域で取り組む褥瘡予防（2021/05/19、西予市）

西予市立野村病院皮膚・排泄ケア認定看護師 小田原 恵先生

病・診連携や病・病連携での活動は地域包括ケア（2021/06/30、西予市）

西予市立野村病院地域連携室長 吉見 達雄先生

地域医療における救急の ABC (2021/09/29、10/29、西予市)

西予市立野村病院内科医師 和田 悠先生

地域における ACP 活動 1 (2021/10/29、西予市)

愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一

地域における ACP 活動 2 (2021/12/15、西予市)

愛媛大学医学部地域医療学講座教授 川本 龍一

二宮 大輔

第 21 愛媛プライマリ・ケア研究会 (2021/08/31、Web 開催)

「ヒト中心の医療-いきるを支える患者のみかた-」

社会医療法人石川記念会 HITO 病院総合診療科：五十野 博基先生

講座関連の研究費

[Ⅰ] 文部科学省 科学研究費

平成30年～令和3年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金・基盤研究C）延長

地域医療実習での地域診断手法の導入による地域志向性の滋養に関する研究

川本 龍一、二宮 大輔、熊木 天児

1,500,000 円

令和3年度愛媛大学地域協働教育研究支援事業

愛媛県医師不足地域におけるコロナ禍の地域医療実習の検討

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔、徳本 良雄、熊木 天児

100,000 円

[Ⅱ] その他 研究助成費

財団法人地域社会振興財団

令和3年度山間地域における生活習慣病に関する研究

川本 龍一、大塚 伸之、二宮 大輔、菊池 明日香

500,000 円

西予市地域貢献研究事業

地域在住者を対象とした健康と生命予後に関する調査

川本 龍一

128,610 円

[Ⅲ] その他 研究助成費

糖尿病重症化予防事業

川本 龍一

愛大コホート研究事業

川本 龍一、菊池 明日香、二宮 大輔

その他

【教育活動】

地域医療学講座地域サテライトセンターでの実績

- 初期研修医（地域医療）2021年度：9名
- 後期研修医2021年度（地域医療・総合医後期研修コース）：3名

【主な委員会活動】

大学関係 学内

- 卒後臨床研修管理委員（川本）：2010年度～
- 地域医療支援センター組織運営委員（川本）：2011年度～
- 地域医療推進委員（川本）：2012年度～
- 愛媛大学南予協働センター兼務職：2020年度～

大学関係 学外

- 広島大学客員教授（川本）：2010年度～

愛媛県関係

- 愛媛県へき地医療支援計画策定等会議委員（川本）：2005年度～

卒後臨床研修管理委員会関係

- 愛媛県立中央病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2007年度～
- 松山赤十字病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2011年度～
- 済生会松山病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2011年度～
- 松山市民病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2011年度～
- 済生会今治病院卒後臨床研修管理委員（川本）：2017年度～

学会

- 日本プライマリ・ケア連合学会評議員（川本）：1999年度～
- 日本老年医学会代議員（川本）：1999年度～
- 日本内科学会四国支部評議員（川本）：2009年度～
- 日本内科学会全国評議員（川本）：2020年度～
- 日本病院総合診療医学会評議員（川本）：2020年度～
- 日本プライマリ・ケア連合学会英文雑誌（JGFM）編集委員（川本）：2020年～

西予市関係

- 西予市立野村病院運営委員（川本）：2009年度～
- 西予市地域医療対策検討委員（川本）：2017年6月～
- 西予市立病院改革推進委員（川本）：2017年8月～
- 西予市立病院地域医療連携システムプロポーザル審査委員（川本）：2020年11月～
- 訪問看護ステーション東宇和運営協議会員（川本）：2005年度～

マスコミ取材

Medical Tribune に掲載 (2021/07/15)

死亡の予期因子 握力と大腿周囲径は死亡の有用な予測因子 地域住民を6年間追跡

Health Day News (2021/07/07)

尿酸値が高い人は適度な飲酒が腎臓に良い？—国内地域住民の横断研究

エフナンラジオ：糖尿病セミナー (2021/07.22、14:10～FM 愛媛、松山市、電話)

糖尿病と癌について



2019年度のもの

FM 愛媛：低年齢からの生活習慣予防と両親への啓発 (2021/11/12、5:00～FM 愛媛、松山市)

「お父さん、お母さん、体に気を付けて！」



編集後記

コロナ禍のおり、多くの事業が中止あるいは変更となり、その代替案として Web 開催が行われています。我々が関係する多くの事業でも例外ではありません。我々の講座の大きな役割の一つである地域医療実習については、各サテライトセンターの存在する各施設のご努力のお陰で滞りなく実施できました。末筆とはなりますが、皆様方のご健康と今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

編集担当

愛媛県寄附講座

令和 3 年度事業報告書

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

愛媛大学附属病院総合診療科

令和 4 年 6 月発行

問い合わせ先

愛媛大学大学院医学系研究科地域医療学講座

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

(代) TEL: 089-964-5111 FAX: 089-960-5131

愛媛大学大学院医学系研究科 地域医療学講座 地域サテライトセンター

西予市立野村病院

〒797-1212 愛媛県西予市野村町野村 9-53 番地

TEL: 0894-72-0180 FAX: 0894-72-0938

久万高原町立病院

〒791-1201 愛媛県上浮穴郡久万高原町久万 65 番地

TEL: 0892-21-1120 FAX: 0892-21-1121

愛媛県立南宇和病院

〒798-4131 愛媛県南宇和郡愛南町城辺甲 2433-1

TEL: 0895-72-1231 FAX: 0895-72-5552